



突然女体化した俺が
入院した病院で
ナースとのエッチな入院生活



なんだか身体がダルい。。。
気温のせいかな？
最近夜も全然寝れないし。。。
たまにはまとまった休みが欲しい。。。
そりでもしないとそろそろ身体おかしくなりそうだ。。。
そりだ。。。



「はあ……」
もう少しで繁忙期も終わるから
そしたら有給でもとるか……
取れるかわからんけど……



それにしても今日は一段と身体がダルい。。。
まるで、自分の身体じゃないみたい。。。
せめて帰ったらすぐに横になりたい。。。





「あの……大丈夫ですか？」

「ほ？あ？……はい……」

俺……周りからも具合悪く見えてる……」

「ちよつと病院とか……」

「もしもでしたら救急車呼びますよ？」

「だ、大丈夫です……」

「自分でいけますんで……」

「そりですか……もしなんかあれば言ってくださいね？」

「親切にありがとうございます……」



「え？」

「どうかしましたか？」

「あつ……いえ……その……」

「ヤバイ……フワフワして来た……」

「マシで病院行く……」

「お姉さんも心配してる……」

「この後、病院行って来ます……」

「あつ……は……」



「はあ……」
胸が苦しい……
病院行こう……
周りの視線もやばいし……
俺が思ってる以上に深刻かも……

洗面所

「ん？」

あれ。。。これ窓じゃなくて鏡だよな。。。

え？女？

え？

夢。。。？





まるで女みたいだ。。。
胸がある。。。？
どうなってんだ。。。？
早く病院に行ってみてもらわなげと。。。



さっきまでの熱とかフラつきは無くなったけど
これは絶対に異常だ・・・
そうか・・・あの時のみんなの態度って
こういうことだったのか？
俺が急に身体が変化したから・・・



と。。。とりあえず病院に急ごう。。。！
でもどの病院だ？
いや、迷ってる暇もない！
ひとまず、総合に行けば何かわかるか？

「なるほど……」

「身体が急にね……」

「原因とかってわかりますか？」

「うーん。こんなには初めてだよ……」

「嘘はついてないとは思うが……」

「俺……嘘なんて！」



「ああわかつてるよ」

「すまない。すまない。」

「ただ、今すぐに原因がわからないのも事実……」

「少々、検査入院してもらおう必要があるな」

「それで原因がわかればいいし」

「何か手がかりがつかめるかもしれない」

「はい……わかりました……」



そんな訳で俺はしばらく検査入院をすることに
こんな形だが、しばらく休めるのはありがたい。。。
でも、今は休みよりも自分の身体に起きてることが。。。
この入院中に分かればいいんだけど。。。



毛ミ

ムニョ♡

それにしても女の身体か……
一応は俺の身体なんだし触っても別にいいよな？
女の身体なんて触った記憶が……



「んっ…」
なんか思ってた感じとは違う？
もう少し興奮というか…
なんか感じると思ったんだけど…
自分自身だから？
意外と何も感じない…

毛三

毛三



「田中さん」
「えーあのはー」



「あら？何してたんですか？」

「え？あついや……」

「ふふ……自分の胸とか触つて……」

「いやらしい事しよう？」

「そ、そんな事は……」





「ふふ。冗談ですよ！」

「急に「こんなことになったんですもん！」

「気にならない方が不思議ですよ！」

「アハハ・・・そうですよね・・・」

「それはそうと体調はどうですか？」

「ダルいとか痛みとかはありますか？」

「あつそれは大丈夫ですね……」

「熱も今はないみたいですし」

「ダルさももうないです」

「そうですか！ならよかったです！」

「そうした採血して身体を拭きましようか！」

「あつはい……」





「はい……」

「これで採血は終わりです！」

「ありがとうございます」

「いえ！それじゃ身体を拭いて行きますので……」





「え！自分でできますよ！？」

「ふふ…ダメですよ！」

「特に今日は、女の子の身体はデリケートなんですから」

「私がしてあげます！」

「拭き残しがないように♡」

///

キーン



「あっ……」

「ふふ♡」

「優しく拭いてあげないと傷ついてしまいますから……」
人に触られると……変な気分……」

「綺麗に拭いてあげますから♡」



「うっ…はあ…」

「どこか…残りやすいですから…♡」
「変だ…なんか変だ…」

「顔…赤いですよ？」

トキ
トキ

「熱でも出て来ました？」
「いや…これは…」



「ふふ♡恥ずかしいことではないんですよ♡」

「今は女同士です♡」

「それにこれは大切なことですから♡」

「リラックスしてください♡」

そんなこと言っても...



「結構敏感なんですか?♡」

「いや…そんなことは…」

「すごく可愛い反応ですね♡」

「私…すごく好きですよ♡」

「え…?」

んんん



「なんだが……♡」
「あーちゅん……♡」
「ふっ触るっ……♡」



「ふふ♡こんなに勃起しちゃって♡」

「本当は感じてたんじゃないですか?♡」
「なに?この身体中に走る感覚は…」

「い、やめて…♡ください…」

「はい?よく聞こえませんかよ?♡」



「はあ。。。はあ。。。」

「これ。。。気持ちいいですか？♡」

「私は。。。こういうのすごく好きで。。。♡」

「されるのもするのも興奮なんですけど。。。」

「田中さんは。。。どうですか？♡」



お腹のあたりが熱く……

「はあ……あつ……」

「もつと……感じて欲しいな……♡」

「例えば……もつと下の……」

下……下……



フッ

エッ

ムッ...

ムッ...

「あっ...」
「もう時間...」
「ええ...」
「ごめんなさいね？もう次の患者さんのところに行かないと
え...そんな...」
「また続きしましょうね？♡」



ああ・・・あんなところで終わりだなんて・・・

どうしよう・・・まだ変な気分だ・・・

どうにかしてこれを解消しないと変になりそう・・・

でも、ここでするわけには・・・

トイレなら・・・誰にも見られずにできるかな・・・？

ムラ...

ムラ...



「あれ？田中さん？」

「ネー」

「アノキホ……」

「マヂニヤ……」

「あ……あ……あ……」

「そうですか。1人でいけますか？」

「あ……でも、田中さん……」



「ああ。。。その。。。だ、大丈夫です！」

「えっと多目的とかで。。。しますから・・・」

「いや。。。それもそうなんですけど・・・」

「？」

「1人でできますよ・・・」

「私が一緒に行きます!」

「え?」

「だってその身体でするの初めてですよね?」

「ならついて行ってあげます!」

「いや!大丈夫ですよ!忙しいでしょうし!」

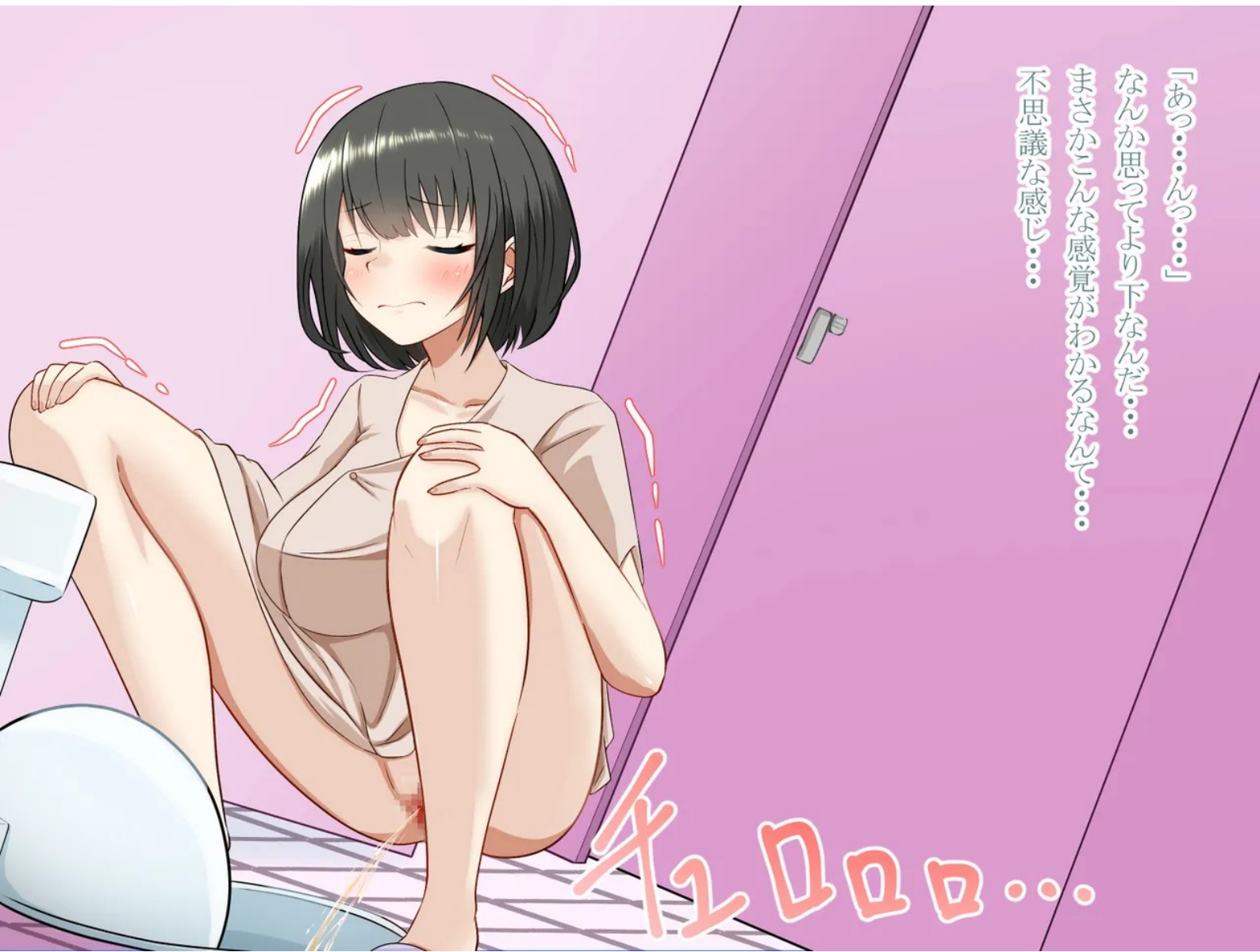
「ふふ!大丈夫ですよ!さあ!行きましょ!」

「ん...」



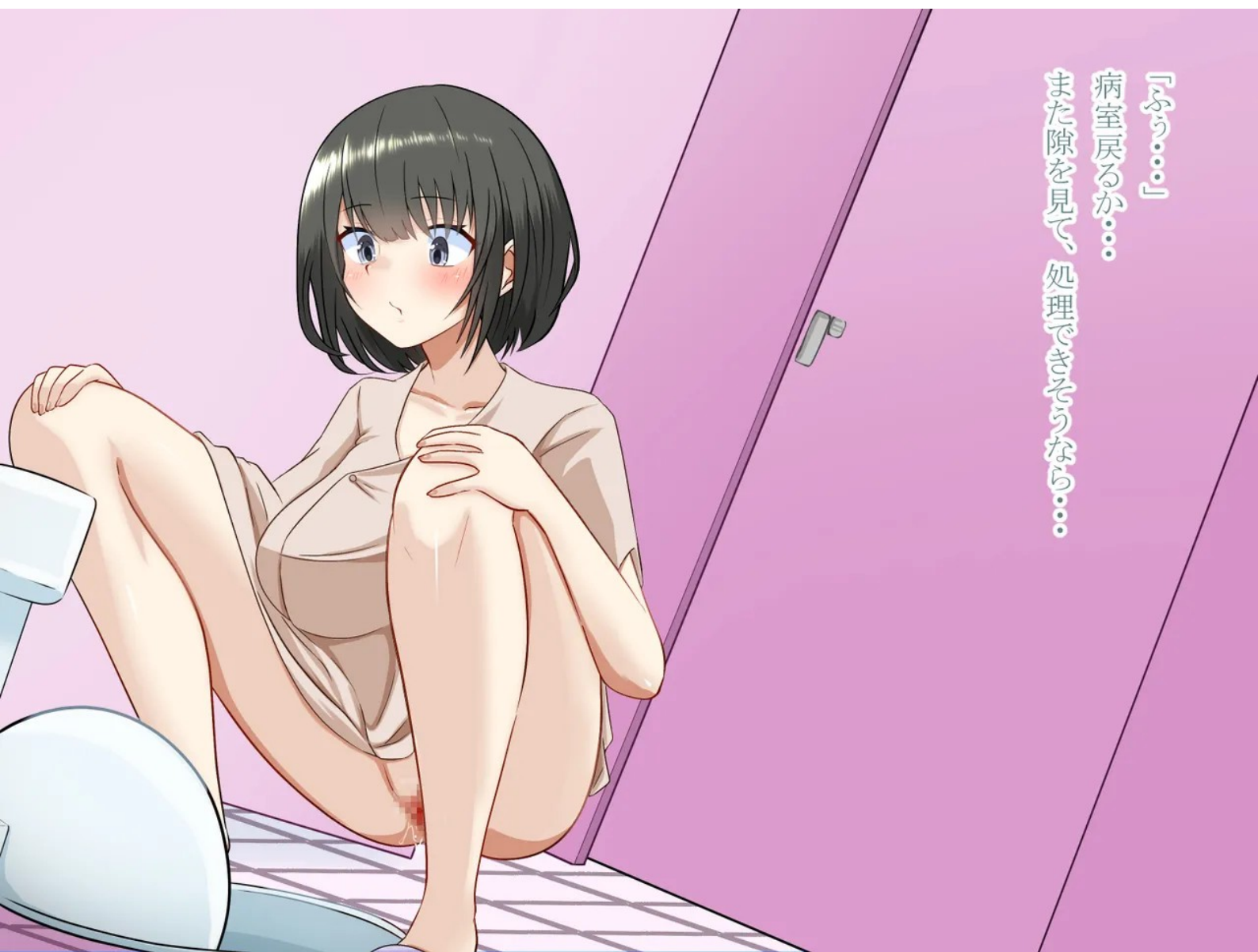


「ここで待ってますから何かあったら言ってきたらね」
「あ…はい…」
流石にこの状態ではな…



「あつ...んっ...」
なんか思ってたより下なんだ...
まさかこんな感覚がわかるなんて...
不思議な感じ...

汗 ぽろぽろ...



「ふっ……」
病室戻るか……
また隙を見て、処理できそうなら……



「終わりました?」

「え!?!」

「ちよつとなんで入ってくるんですか!?!」

「ちゃんと拭けるか気になって♡」

「ふ、拭けますよ!」

「そうですか?♡ふふ♡」



「でも初めてなんですから私が拭いてあげますよ♡」

「そんなことまでしなくても…」

「適当にされても後で困りますから♡」

「きちんと綺麗にしてあげます♡」



「わー」

「ふふ♡ほら…早く拭かなきゃ♡」

「近々…いっ句いもする…」

「いやいや違う違う！」

「ムッ」



んんん

「はっ……」

「ふっ……ちゃんと綺麗にしてあげますから♡」

「やばい……なんか変な感じがする」

「さっきのとは違う感覚……」

「優し〜……優し〜♡」



「はぁ……じ……自分で……」
「で、できますから……はぁ……あつ……」
「遠慮しないでください♡」
「私がしてあげます♡」
おかしくなる……変な気分……



「あれ？拭いても拭いても……」

「まだ濡れてる……♡」

「どうしてですか？♡」

「もしかして……感じてます？♡」

「そ、そんな……わけ……」

ドキ

ドキ

トキッ

キョ♡

ギョッ…



ドキ!!!

キーン

キーン

「あ……あ……」

「ん……ん……」

「い……い……誰……誰……見……見……れ……れ……な……な……さ……さ……」

「さ……さ……あ……あ……」

「あ……」



「本当は……うんねしだからたごすよな♡♡」

「ええ♡♡」

「ええ♡♡」

「ふふ♡♡おならまき♡♡」

「見つけたら♡♡」



「こんなにかき引いてる♡」

「このシチュエーションに興奮とかしてます？♡」

「そ、それは…」

「私は興奮して来ますよ♡」

「どうですか♡ムム♡」

「え…」

トクッ
ハッ



「女の子の身体で気持ちよくなりたくないですか?♡」

「私なら気持ちよくなれますよ♡」

「あなたの身体♡」

「...」

「すい〜んドキドキしますね♡」



「恥ずかしい…」
「ふふ♡最初はそりであうよね♡」
「でもすぐに気にならなくなりますからね♡」
「ん…」
「ちよこと広げますね♡」



ハア

くばあ...

「あら...すく〜綺麗♡」
「こんなと糸引いちやこ♡」
「すく〜ええですね♡」
「うう...あんまりジロジロ見られると...」
「これ...めっちゃ興奮する...」



「ふふ♡興奮しちゃいます?♡」
「はは♡ですよ♡どんどん興奮して濡らしちゃってください♡」
「その方がたくさん気持ちよくなるので♡」

ドキ

ドキ

キュン♡

ドキ

♡♡



「あっ……はぁ……」
「うん気持ちいいですよね♡」
「もっ…んなに勃って♡」
「やばっ…うん…」
「気持ちいい…」



「中にも入れますね♡」

「痛かったら言ってください♡」

「へ…はあ…」

中…



「んっ!んん...あつ」
「簡単に入って行きますね♡」
「指すごく気持ちいい♡」
入って来てる...この感覚...
いいかも...

ドクン

ムム
ム

ム

ム
ム



「どこかもうですか?♡」
「私……すごく好きな場所なんです♡」
「あつ……はあ……あんつ!」
気持ちいい……そこ……気持ちいい……



「よかった♡すごく気持ち良さそう♡」

「我慢しないでいいですからね♡」

「イきたい時にいつってください♡」

「んっ! あっ……!」

「やばい……やばい……」

「おかしくなりそう……!」



「愛液がたくさん♡」

「可愛い♡はあ♡」

熱い…お腹のあたりが…

何か上がってくる…!!

「あっ…イクっ…」



「はあああああ！」

「あ♡」

我慢できないい！

やばい！



「立てますか?♡」

「は...はい...」

「なんとか...」

「無理しなくてもいいですからね♡」

「ちよっと休んだかお部屋に戻りましょうか♡」

「はい...」



「また何かありました…呼んでくださいね♡」

「はい…ありがとうございます」

「また…呼んでシテもらって…」

「いや…こんな不純なこと…」



「えーあっ…はっ」
「いっせいですよっ♡何いっせいですよっ♡ふふっ♡」

今日はすごい日だったな。。。
今でもドキドキしてる。。。
いつまでもこの生活できるかな。。。
もしかして今夜も。。。
いや、流石だ。。。それはないか





「田中さん」

「あ、はい」

あんな新しい人だ。。。

「お風呂の時間ですよ」

「えっ、お風呂？」

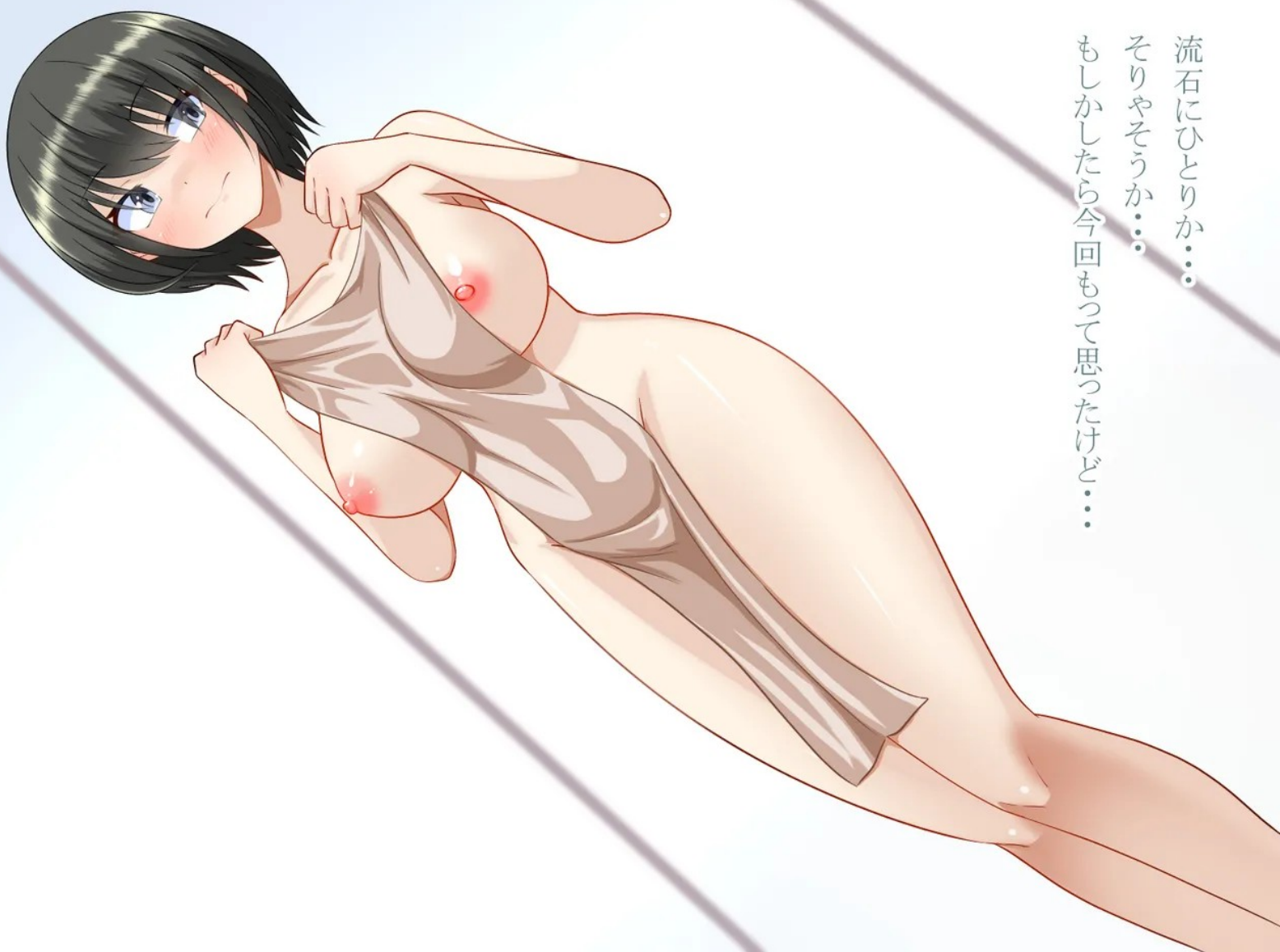
「はい？」

「動きますか？」

「…」



流石にひとりか…
そりゃそうか…
もしかしたら今回もって思ったけど…



でも改めて自分の全裸見ると・・・
いやいや自分の身体だ・・・
それに興奮するとか変だろう・・・
変なこと考えずに早いとこ済ませて上がろう・・・



ちやつとだけ…
バレないだろう…
オ●ニーしても…
せっかくだ!
今のうちに…
よし!そうしよう!



「ふう……」
一通り洗ったし……
ちよつとだけ……



なんかすごいドキドキしてきた…
なんか悪いことしてる気分…
でもこの身体は俺の…
俺の身体なんだから好きにしてい…





早くしないと...
よし...

ドクン...

ポクン...

ポクン...



「ちゃんと洗えました？」

「え！」

ナースさんの声！？

「洗ってあげましょうか？♡」



「なんで裸なんですか!？」

「ここはお風呂場ですよ？」

「裸なのは当然ですよ？」

「いや……その……」

嘘……まさか!



「洗い残しはダメですからね♡」

「ほら・・・私が丁寧に洗ってあげます♡」

「あの・・・その・・・」

「この展開・・・本当に？」

「お、お願いします・・・」



「ふふ♡は♡」
「綺麗にしますね♡」
「はあ♡…」



「それにしても綺麗な身体♡」

「羨ましいです♡」

「そんなことは・・・」

「私・・・あなたみたいなのタイプです♡」

「え？」

「だから・・・たくさんサービスしてあげます♡」



「あつ・・・そこは・・・!」
「ふふ♡どうしたんですか?♡」
「あれ?すごく熱いですよ?♡」
「それは・・・シャワーの・・・」
「本当ですか?♡もしかして・・・」



「オ●ニーしようとしてたんじゃないですか？」

「！」

「そんなことは……」

「もしかして嘘つけないタイプですか？」

「バレバレですよ♡その反応♡」



「でもこんな身体ですもん♡」

「したくなりますよね♡」

「私だったら我慢なんてできませんよ♡」

「ましてや、男から変わったのならなおさら♡」

「あっ！」



「女の人に・・・♡」

「責められるのは好きですか？」

「こういうの想像してたんじゃないですか？♡」

「昼間も2人としてたんですよね？♡」

「え！」

「話してましたから・・・」

「羨ましくて・・・今回は私に変わってもらったんですよ♡」



「私も・・・あなたと・・・」

「えっちしたくて♡」

「あなたはどうですか?♡」

「え・・・」

「私とえっちなことしたくないですか?♡」

それは・・・そんなの・・・



「し……したい……」

「したいです……!」

「ふふ♡よかった♡」

「じゃあしまししょうか♡」



「はい…♡」

「お願いします…♡」

ここ最高だ…

もうしばらくは入院してたい…!!



「すごい♡」

「この音聞こえます?♡」

「すごくえつちな音♡」

「この音大好き♡すごくえつちな気分になります♡」

「あっ♡はあ♡」



「私…結構上手いって言われるですよ♡」

「どうですか?♡」

「はぁ…あっ♡」

「き…気持ちい…です…♡」

「あは♡嬉しい♡」



「ああ♡」

本当に…気持ちいい…

身体がおかしくなる…

「私にイクと見せてくださいね♡」

「はあ♡はあい♡」



「ああ♡はああ♡」

「音がどんどん大きく♡」

「量も♡」

もう…我慢できない…!!

いきそう…!!

「い…イクッ!」

「はあ♡い♡い♡」



「んんっ! あああああ」
「♡♡♡かわい♡♡♡」



「はあ……はあ……♡」
「頭……真っ白になる……♡」
「気持ちよかったですか？♡」
「私の手♡」
「はあひ……♡すい……♡」


「ほめ…」

すごく疲れた…

でもすごく気持ちよかった…

今日はぐっすり寝れそう



A dark, dimly lit hospital room. In the foreground, a hospital bed with blue linens is visible. To the right, there is a nightstand and a window with dark curtains. A small lamp on the wall provides a soft glow. The overall atmosphere is quiet and somber.

それにしても俺は泣きます
この身体でいれるんだらう？
こんな思いができるなら
このままでも死んでもいいかな。。。
「。。。」

「おっ」

？誰が入ってきた？

巡回のナースさんかな？

こんな時間まで大変そう。。。

ガキ

あれ？俺の心で止まった？





「あ♡起きてる♡」
「んげんは♡」
「え。。。ナーンズん。。。」
「昼間はんげん♡」
あの時の。。。



「夜這い……♡」

「しに来ちゃいました♡」

夜這い……？夜這いで……あの？

「昼間の続き……♡」

「人ではせん？♡ふふ♡」



「……はぐ♡」

「あら♡すんなり?♡」

「ちよつとは戸惑うと思っただけで、よかった♡」

「じゃあ♡しましよろか♡」

夢の……csp♡



「あつ…でも、音で…」

「ふふ♡そんなこと気にしてるんですか？♡」

「大丈夫ですよ♡」

「みんな今日は起きないですから♡」

「え？なんで…？」

「ふふ♡田中さんが気にしなくていいですよ♡」



「だから安心して声も出していいですから♡」
「私たちも我慢しないうすから♡」
「思いつきり気持ちよくなりましようね♡」
ちよつと気になるけど。。。
それより今は。。。
「はい♡」

「いろいろの興奮するね♡」

「ええ♡すき♡」

「すげえ。。。本当に夢みたい。。。」

「今夜は長くなりそう♡」



「すごく柔らかいおっぱい♡」

「肌もすべすべで…♡」

「触っただけで濡れちゃう♡」

「私も♡」

「あなたはどうか?♡」

「そんなの…決まってる…」





「あつ♡」

「ふふ♡もう濡れてるよ♡」

「あら♡聞くまでもなかったみたい♡」

「はあ…♡はあ♡」

「乳首もこんなに固くなってるし♡」

「すくくえつちなんだね♡」

ぐんぐん

んんん♡

んんん



「はい♡」

「そうかもしれない…です♡」

「素直な子♡」

「すごく好きよ♡」

「私も♡ふふ♡」



「あっ♡はああっ……♡」
「ああ♡もう♡イっっちゃった？♡」
「でもまだ出来るよね♡」
「はい♡大丈夫です♡」
「はあ♡はあ♡」



「入れますね♡」

「んっ♡はぁ♡」

この入ってくる感覚...

病みつきになる...

「あら♡この子...」

「この感覚好きみたい♡」

「えっちなおま♡」



「あはは♡すごい締め付けてくる♡」

「私の指気持ちいい?♡」

「はあ♡すい♡」

「これは名器になるかもね♡」

「もうめちやくちやにしたい♡」



「はあ♡ああ♡」

「すごくえっちな顔♡」

「もっこの表情みたい♡」

「熱い…また熱いのが…」

「あ♡またイキそう？♡」

「私たちの前でまたイってるって見せて♡」



「イクッーいきますー!」
「SAYONARA」



「めめめめめめ♡♡♡」

「やっ♡」

「はぁ♡♡♡♡♡」



「はあ……♡はあ♡」

「すごい♡温かいのでた♡」

「天洪水だね♡ふふ♡」

「すごく気持ちいい……」

んんん

んんん

んんん

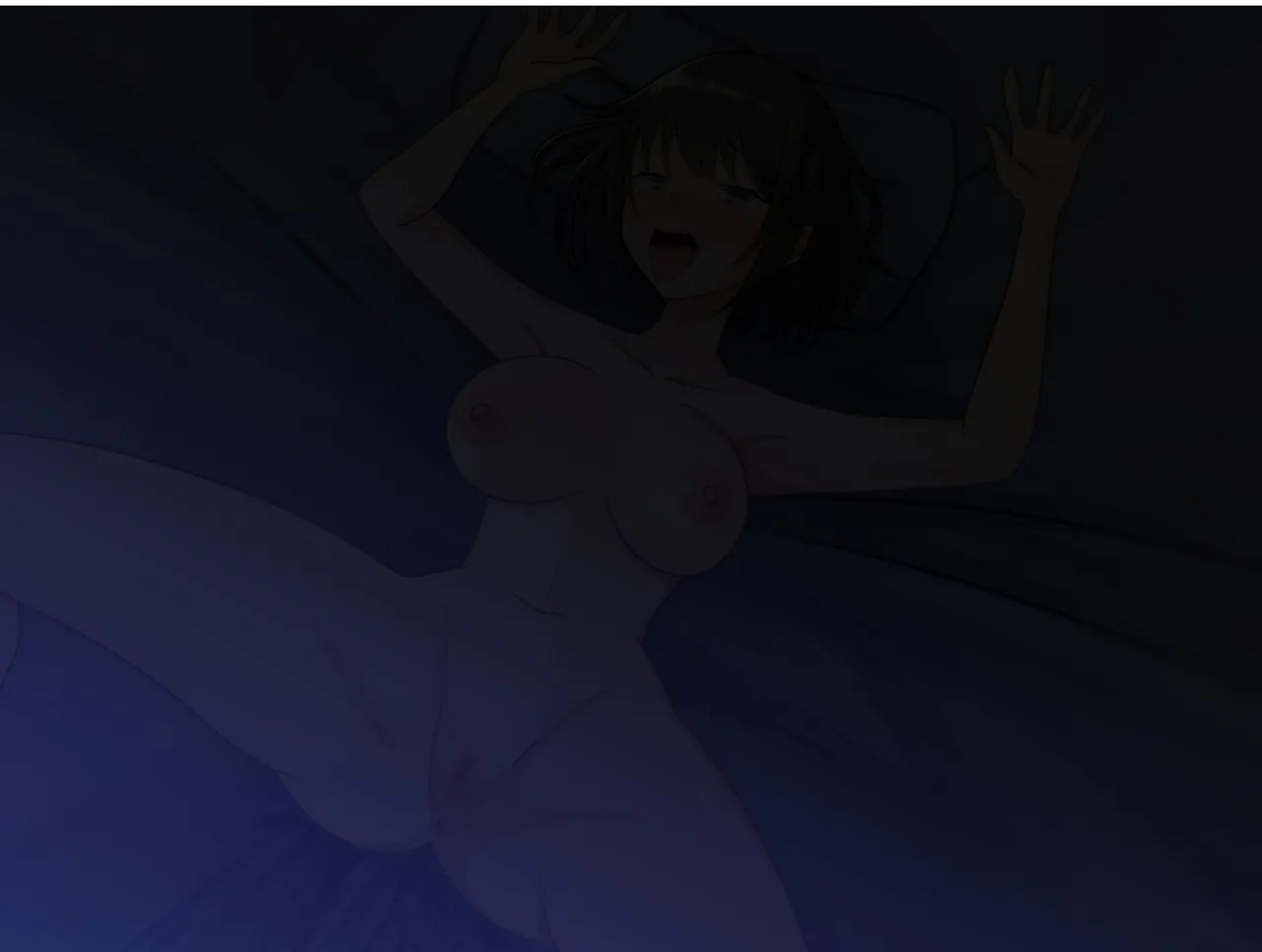
んんん

んんん

んんん

んんん







あれ・・・？

朝？

あのまま寝ちゃったのか？

「おはようございます」



「あひ……おはようございます
ん？あのみみ……？」

「あっ！」

「どうしました？」

あれ？服着てる・・・

あの後・・・どうしたんだろ？

着せてくれた？それとも夢？





「どうかしたんですか？」

「あついや…ちよつと…あはは」

「夢だったかもです」

「夢？」



「もしかして……夜に何かありました?」

「え?」

「例えば……夜ここでえつちしたとか?♡」

「!」



「ひひ♡知ってますよ♡」

「あの子たちとしたんですよね？」

「昨日の夜に♡」

「羨ましい…私、夜はいなかったから参加できなかった…」



「だから今日は私が♡」
「思いつき楽しみもろかなって♡」
「え！」
「いいですよね？♡」
「私もしたいです♡」
「あなたとえっち♡」
「昨日だと足りないです♡」



「あっ…はひ♡」
「お願いします…♡♡♡」
「わわ♡」



「実は今日はこんなの持ってきたんです♡」
「それ・・・」
「これで一緒に気持ちよくなりませう♡」
「さあさあ♡」
「服・・・脱がしますね♡」



「ああ♡やっぱりいい身体♡」

「えっちな気分になる♡」

「このすべすべな肌に…♡」

「あ♡♡」



「も♡」

「んっ♡そんないきなり...」

「ごめんなさい♡でも私も我慢できなくて♡」

「あなたもですよね♡」

「もうこんなに♡」

♡

♡♡♡

♡



「ほら♡」

「こんなに杀引いてますよ♡」

「あんまり見せないで…おん…ださる…」

「なんでですか？♡こんなえっちなのに♡」

「恥ずかしいですよ…♡」

「もう可愛いですね♡」



「これくらいもう濡れてるなら♡」
「早速これ…使ってみます?♡」
「はい…でも…」
「ふふ♡優しくしますよ♡」
「うう…お願いします…♡」



「あつ♡はあ...♡」
「んんっ...♡」
ふ、太い...でも気持ちいいかも...
「入つてく...♡ああ♡」



「はあ♡はあ♡」
「入ったね♡はあ♡」
「これで私たち繋がったね♡」
繋がった…ナスさんと…
「はあ♡嬉しい♡」



「痛くない？」

「大丈夫です♡」

「ふふ♡よかつた♡」

「動かしてもいい？♡」

「はい♡動かしてください♡」



「あー!はあっ♡」

「んっ♡ああ♡」

すごい…中で動いてるのが…

かき回されてる…

すごくエロくて…気持ちいい



「えつちな音♡」

「どんどん濡れちゃう♡」

「ちよつと。ペースあげちゃいますね♡」

「あっ♡はあい♡んっ♡!」

「はあ♡はあ♡」

MA

9

A



「ああ♡気持ちいい♡」

「気持ちいいよ♡」

「もう止まんないよ♡」

「はあ♡あっ♡」

もうえっちのことしか考えれない…



「イクッ!イクッ!♡」

「いいですよ♡いっつて♡」

「私もイキますから♡」

「一緒にイキましょう♡」



「はぁ♡あはは♡」

「あさいちでヤルの気持ちいいですね♡」

「はぁ♡はぁ♡」

「はぁい♡すごく気持ちいい♡」

数日後

「早く私も♡」

「はぁ♡あんっ♡」

「今日も可愛い♡」

「嬉しいです♡」

俺の身体が男に戻ることは現在ない……
いつ戻れるかも原因もまったくわからない……





しかし、そんなことはどうでもいいと思ってる
今はこの時間が幸せだから……
毎日のようにナースたちと……



俺の身体はどんどん快楽を求めていく……



突然女体化した俺が
入院した病院で
ナースとのエッチな入院生活







































